

折り紙の話（8・3・16）

寺田徳重（昭10・理甲）

皆さん高い所からのご挨拶で恐縮でございます。ようこそお忙しい中をまげてこの拙い話を聞いてやろうということにして頂き、誠に恐縮致しております。

こちらは又話下手で、人さんの前で、あまり話をしたことがないのです。今度折り紙について話をしてみないかということで、お呼び出しを頂き、折り紙という言葉に引かれまして心安立てに引き受けさせて頂きましたのが、私の第一の誤りであつたと考えているわけでございます。それに先立つてお話をさせて頂く、人様に聞いて頂くことが、先ず第一に難しいものであるということを忘却していたので、それでこういう派目に落ちたんではなかろうかと思ひます。こちらの井垣さんや、その他大勢ご奉仕下さっている方々のお蔭を持ちまして、我々三高を出ました者が、ここでいろいろ交換したり楽しんだりさせて頂けることは有難いことで、先ずその方々に心からお札を申し上げる次第でございます。その賜として、平常はお目にかかるない同輩、先輩の方々

と胸襟を開いて、開かれるとかどうか知りませんが、私の方は開いとるんですが、楽しく時間を過ごさせて頂くことが出来る誠に有難いことだと思っております。その辺りに柔道部の先輩がおられます、それ以上曲げたら腕が折れるのが分かつてゐるのに、曲げようとされ、よう痛めつけられたことを（笑）今思い出しました。長い間お目にかかつたことがない先輩とも、ここへ来ればお目にかかる、何でもっと早うここへ来なんだかと思うわけでございます。

最初に私の自己紹介をさせて頂きますが、只今箕面市に住んでおります。皆様はしょつ中ここへお越しになつてゐる感じですが、私は、滅多に来ませんので、来ないのも私が悪いのですが、今日は折り紙についてお話をさせて頂きたいと思います。

折り紙を折るということですが、折り紙をやつていて何の役に立つんや、何の役に立つかと云われますが、折り紙は、折り紙を折ること自体が楽しく、出来た物を見るのも楽しいので、私はなかなか止められません。誰でも小さい子供の時に教えてもらつた紙飛行機があると思います。飛行機の折り方を先輩の人に教えてもらつたのですが、先輩が飛ばすとスツーと直ぐ飛ぶのに、自分が折つたやつは、飛ばしてもおじぎをしてストンと落ちてしまう経験があると思うのですが、だんだん折つて訓練を積みますと、スツーと水平に飛んで行く。そういう時の愉快さがこたえられませんので、それが云わば折り紙の楽しさ、醍醐味であろうかと思います。

ここに作品を沢山並べさせて頂きましたので、ご着席の前に、側に行つてご覧頂いたかと思ひ

ますが、まだの方がおられましたら、どんなものが並んでいるか見て頂きたいと思います。ここにありますものは、ご承知のお雛様と雛段です。それからこれは白鳥の湖と申しまして、日本折り紙協会主催で、確かに大阪のどこかの百貨店であつたと思いますが、そこへ出品したものです。全部私の創作で、折る時には、私の知人、友人、いろんな人十人位にお手伝いをしてもらつて、こういうものを作りましたら、これが一等になりました。それ以来、どこへ行つてもこれを見せようと、私の誇りとして持ち歩いています。例えばここに踊り子が十五、六人いますが、この踊り子にどういう服を着せるか、図書館へ二週間程通いました。そしてだんだんと調べましたら、このスカートみたいなものやら、チュツチュというてワイシャツの姉さんみたいなものやら、いろいろなものを一人の踊り子が五枚位着ているんです。これらを全部紙で折つて何重にも着せてあるわけです。その向こうに踊り子達が後でご飯を食べるビルがあります。このビルには、瓦やタイルが積み上げられ窓がついて出来ているわけですが、これは五百枚位の折り紙を折つて出来ているわけです。こんなふうにして、はじめて作品が出来るわけです。それからもう一つの方は白い鶴です。あの鶴は大体八センチ角位の紙で鶴一匹が折れているのですが、実は小さい紙で折つたのではなくて、この位の（A列全紙大）紙に切り込みを入れまして、そして隣の紙と紙とがこういうところで、ちょっとひつついているだけで、あとの四角い紙と四角い紙とを切つて、角だけにくつついている、そのものを一つひとつ折つて鶴の形になつて定着したというそういう性

格のものです。その前にいろいろな色でゴチャゴチャとありますものは、大体五センチ、七センチ位の長方形の折り紙を使います。ユニットは同じ折り方ですがそれを組合わせて発想的な形をしています。—— うるさいです。

人によつては、いろいろ受取り方があると思ひますが、私の感じたところ、出来上つた時の嬉しさは格別であると思つております。今ここにおられる皆様の中で、折り紙をお折りになつたご経験がおありの方は、失礼ではございますが、ちょっとお手を挙げて頂きましょうか。今、約三分の一の方のお手が挙がりました。折り紙というのも、こんな面倒なものではなく、シンプルなものをおやりになつたのかも分からぬですね。どのようなものをおやりになりましたか。紙飛行機でしょうか。他にどうぞおつしやつて下さい。

—— 葛蒲を折りました。折り紙の中から葛蒲がいいだらうと思ひまして、葛蒲を折りました。
花弁とか額など。—— (聴衆者)

これは我が党ですな。こんなものを折つて、何が面白いんやといつお方もいらつしやるんです。今の先輩のよう、私以上に熱意を持つてお折りになつた、お作りになつた方もいらつしやる。ですから人さん人さんによつて、いろいろ受取り方、考え方方がお違いになるのだろうとこのように思ひますが、私は今のお話の後からついて行きたいと存じております。

折り紙みたいなものを折つて何になるんや、何の得になるんやと、こういふ意見の方もある

わけでございます。私は折り紙を折っている最中に、ハハあーん、こういう形になるのかを大発見して楽しみを味わうこともあります。また、こういうふうなものを作ろうと思っているのに、なんばしても作れなくて、仕舞いには、手で揉んで破つて捨てたこともあります。結局、これは一人よがりと云えば一人よがり、頭の訓練と云えば頭の訓練、いろいろ受け取り方があつてよろしいのではないかと思つております。

今、ここへお寄り下さいまして、ご覧頂いたのですが、これをご覧頂きまして、面白いなと思われた方はいらっしゃるでしょうか。どれが面白かったでしょうか。皆様小さい時から大部大きくおなりになつたのですが（笑）大体折り紙はやつたことがおありになるわけですね。

ここにございます折り紙は、私が考えてやつたもの、一生懸命考えてやつて、何辺かやつて、失敗してやり直したものもあります。例えはここに難段があります。これは一枚の赤い紙です。一枚の赤い紙をいろいろ重ねたり、段を作つたり、折り重ねてこういうものが出来るわけです。横手が滑り台のようになつていますが、段々になつていてるわけで、これを広げますと一枚の紙になります。一枚の紙でこういうものを折るわけですね。今度はこちらに複雑な形をしたものがありますが、これは皆これ位（巾3cm長6cm）の大きさのものを折つて、これを刺子にしますと、こんなふうに出来上つて行くわけでございます。

また、例えば折り紙でサルならサルを折りますね。これはうまく折れたなと思つて友達に見せ

ます。友達が「これ何や犬か」と言われたらがつかりするわけです。誰が見たかでサルだと思っているわけです。それを犬かと云われたら、そんなに偉そうに云うのなら犬を折つてみろと言います。たくなるわけで、つまり、折る人間は一生懸命になつて折つているわけですね。先程のくり返しになりますが、折り紙みたいなものは何の役に立つのかと、こういうご意見もあります。私は折り紙というのは名々の造形的な観察力を養う一つの大事な要素になつてゐると思います。そしてどんどん自分の物の見方、物の分類の仕方等が整理されて行つてええと思うんです。折り紙はあはと気違ひだけがするものではないと思うんです。もう一つは折り紙が出来上つて、ようこんな物が出来ましたなど感心して下さる。何故感心して下さるかと申しますと、ご自分が出来ないからです。ご自分が出来ないということを感じる方が何人かいらつしやるということは、出来ない方が大部いらつしやるということです。そうなりますと、我々は暇つぶしでも何でも理由のいかんを問わず、そういうものを作つてみようという熱意、そしてその結果、出てきた器用さを、そういうもので出来上つた物が、大体自分の希望したものに適つているということでありますれば、折り紙みたいな物何の役に立つのかと、こういう考え方ではなくなつて、結局名々が、自己満足といふか、自分の楽しみとして折り紙をやる、こういうよくなつてもいいんじゃないいかと思つうんです。折り紙哲学みたいなことを申しました。

現在、折り紙の団体は全国至る所にございます。今から六、七年前に折り紙を考えた人は、日

本では誰かなと思いまして、大阪中の島の図書館へ古い本をあさりに行つたんですが、要領を得ませんでした。最近になり、又古い物を見ようと思い中の島へ行きましたら、中の島に図書館はなかつたんです。中の島図書館は潰れて、いないので。西の方の玉川町かどこか五ヶ所位に分散して、そこへ新しく図書館を建築中であります。中の島の市役所の隣の図書館は、自習館と申しまして、受験勉強する子供を集めて、某しかの机の使用料を取つて、そこで自習をする子に使わせているわけです。それで私はあちこちで建築のやり直し中の、大阪の新しく出来る図書館が完成したら、もう少し古くからの折り紙について書いたものを、もう一度探し直そとか思つております。

ここでこの雛段飾りがどういうふうになつてゐるかご覧頂きましようか。こういうものは、飾つておくだけのものなのですが、この陳列しているものについてご説明申し上げます。このぼんぼりは一つ一つ作つたものです。この三人官女は、一人／＼作つてここへ置くと、組んだりのせたりがじやまくさいから、ここだけ持てば、摘めば三人が板の上に揃つてのつてゐる、こういうふうにしているのです。これは家来の方ですが、これも同じようにしてあります。五人囃子というのも同じ構造です。太鼓をたたいたり拍子木を打つたりしてゐるのも同じ構造です。左近の桜、右近の橋というのがござります。これもまとまって出来てゐるわけですね。先程ちょっとお話しした雛段、これも一生懸命考えたわけです。ここをクックッと折つてこの雛段の形を作り出します。

ゼムピンで要所要所を止めているわけです。いろんな所に頭を使い、力コブを入れて難段を作る、これは人さんの考え方によりましては、このクソ忙しいのに何をしているのかと思われる方もあるとらっしゃるかと思いますが、又ハハあーん、そういう遊び方もあるのかとおっしゃる方もあると思います。作品が、さんたんたる苦心の末に出来たその嬉しさ、ここをもう少しこうすればというよ、うな、人によつていろいろであります。折り紙もそつバカにしたものでなくて、自分の考えを練るためには、非常に役に立つと思います。折り紙というのは、小さい子供の頃から教えられて始めます。私は医者でないので分かりませんけど、小さい子供のものを考えていく機能がだんだん発達していくのではないかと思います。

現在日本では、折り紙に興味を持つ、私のようなバカ者、折り紙好きな人間ばかりが寄つて、一緒に折り紙を折る、新しい作品を見せて自慢したり、助け合つたりする、そういう仲間の集まりが、東京に日本折り紙協会というのが出来ております。もしもパンフレットが見たいという方がおられたら、そこにも沢山ござりますのでご覧になつて下さい。京都の事情はよく存じませんが、大阪・東京では三越とか大丸とか、各百貨店などを借りまして、そこで折り紙展をやりました。例えばこれは大阪の三越でありました時に出品した作品で「白鳥の湖」という題をつけ、一等賞を頂いたものです。展示期間中見に来られたお客様の票を集めまして、一番票の多かつた作品が一等になるわけです。このようなことを皆さんに云いたくてお見せしたのではないのです

が、こちらの作品は、一枚の紙で十七匹の鶴が折れているのです。いろいろと工夫をしなければ出来ないので。たつたこれだけの形の物でも、やる気になつてしっかりやりませんと出来ません。今まで人さんがやつたことがない物を、初めて自分がやれた時まことに楽しいものです。

話はちょっと変りますが、神社仏閣へ参りますと、祝詞のりとというものがあります。祝詞とはどういうものかと云いますと、参拝者の中の願い事、あるいは出来事を、神主が神様に報告をする時の言葉です。その時の祝詞はどうなつてあるかと申しますと、折り紙の一種になります。また、玉串というものがあります。玉串というものは白い紙をだんだんに折りまして、それを榊の葉に付けたものですね。神社仏閣に行かれた時に、ご覧になるとあります。これも折り紙の一種です。折り紙と云ふと、遊戯、遊びかその類のものになつてしまいますが、玉串のような物になると、これは実用品で、これは神様に御供えするそういう物になるわけです。ここへ持つて来ていましたが、こういう形をしておりまして、お米を入れて神様に御供する道具もあります。物の本によりますと、ご家庭で母から子へ、子から孫へというふうに伝わりましたそうで、大体折り紙という物が出来たのは、徳川時代の初期であると書いてありました。現在では、日本折り紙協会というのが東京にありまして、東京のそれに隸属して日頃研鑽を積んでいるグループもあるわけです。

このパンフレットは、その協会がどういうことをやつてあるかが書いてあり、会員は東京だけ

じゃなく、大阪にもあり、全国的にそういうものがございます。この協会のテキストは非常によく出来ておりますし、初步的なものから、難しいもの迄全部あります。泽山あります。そしてどのようにして折り上がるか工夫したりします。そういうことが出ております。ですから少々の数でしたら差し上げることも出来ます。泽山お入用なら取り寄せることも出来ます。この本は五十ページ程あり、色々な折り方の図が日本語と横文字とで書いてあります。大体これを見て折つていけば、たいていの物が出来ます。百貨店なんかへ行きますと、このような折り紙の本をいっぱい売っていますが、これは、非常に真面目な考え方のもとに作られておりますので、もし、お入用の場合は、日本折り紙協会に申し込めば送つてくれます。

例えは私がサルのつもりで折ったとします。どうやこれは何に見えるかと聞く、何やそれブタかと云われると面白くないわけです。それ、サルやないか、うまいこと出来とるやんかと云われたら、非常に元氣づくんですね。それらしき物に折れるには、どういうふうにして折るかということを、平静から熱意を持って訓練するわけです。折り紙みたいなもの、折つて何になるんやと、こういう考え方だとどっちにしても出来ないのであります。私はそのように考えております。大体折り紙については、以上でござります。